

受益者の皆様へ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。さて、「DCワールド・ソブリンインカム」は、このたび、第15期の決算を行いました。

当ファンドは、ワールド・ソブリンインカム マザーファンドを通じて、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）に分散投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

第15期末(2021年2月25日)

基準価額	13,720円
純資産総額	105百万円
第15期	
騰落率	△ 0.4%
分配金(税引前)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、岡三アセットマネジメントのホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
ホームページのファンド情報から当ファンドのファンド名称を検索することにより、運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

DCワールド・ソブリンインカム 確定拠出年金専用

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2020年2月26日～2021年2月25日

交付運用報告書

第15期(決算日2021年2月25日)



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214 (営業日の9:00~17:00)

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

1万口当たりの費用明細

(2020年2月26日～2021年2月25日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	128	0.935	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(48)	(0.352)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(72)	(0.528)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(8)	(0.055)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.024	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0.010)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(2)	(0.013)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.001)	その他は、金銭信託支払手数料等
合 計	131	0.959	
期中の平均基準価額は、13,679円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

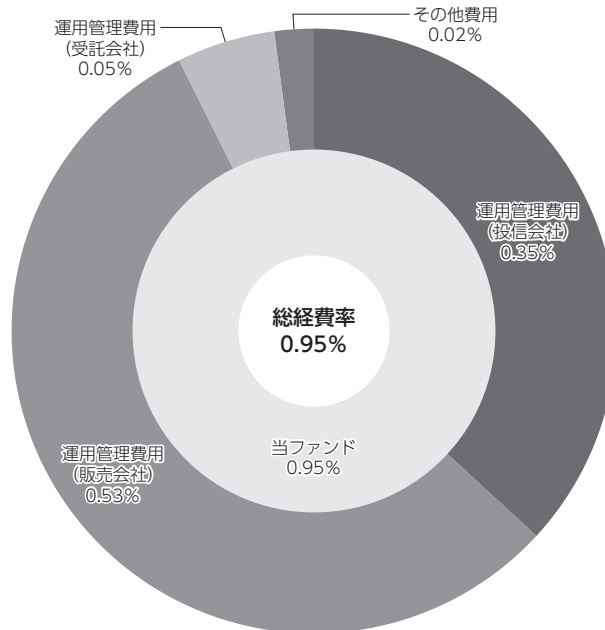
(注) その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.95%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

投資環境

(2020年2月26日～2021年2月25日)

<投資国の債券市場>

投資国の債券市場では、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、多くの中央銀行が利下げや量的緩和（国債等の資産を購入し市場に資金を供給する政策）による金融緩和を実施したことから、米国債を中心に利回りが低下（価格は上昇）してスタートしました。その後も各国の債券利回りは総じて低位での推移となりましたが、徐々に景気回復の動きが強まったことや、2020年11月の米国の大統領選挙後に世界的な株高が進行したことを受けて、年末に向けて債券利回りは緩やかに上昇（価格は下落）しました。2021年に入ると、米国において大規模な追加経済対策が成立するとの見通しが強まったことや、世界的な新型コロナウイルスのワクチン接種進展を受けて経済活動の正常化への期待が高まったことから、米国を中心に投資国の債券利回りの上昇基調が鮮明となりました。この結果、当期における投資国の10年国債利回りは、イタリアを除き全ての投資国で上昇しました。イタリアに関しては、2020年3月には大幅な利回り上昇が進行しましたが、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の導入、欧州連合（EU）首脳会議での復興基金の創設合意、ドラギ前欧州中央銀行（ECB）総裁の首相就任等がサポート要因となり、期を通じては利回りが低下しました。

<為替市場>

為替市場では新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、安全資産として円を買う動きが強まり、投資通貨に対し円が全面高のスタートとなりました。ただ、米ドルに関しては、2020年3月に対円で下落後に急上昇するなど、短期間で乱高下する展開となりました。その後は、主要先進国の強力な金融・財政政策に支えられ、世界的に株価が戻り歩調となったことや、徐々に景気回復の動きが強まったことから、投資家のリスク選好の動きが優勢となり、2020年中は米ドル以外の投資通貨が対円で堅調に推移しました。一方、米ドルに関しては、対円で軟調な推移となりました。2021年に入ると、世界的に債券利回りの上昇基調が鮮明となり、内外金利差が拡大（一部の国に対しては、内外金利差のマイナス幅が縮小）したことを受けて、投資通貨全般が対円で上昇基調となりました。この結果、当期においては、米ドルが対円で下落した以外は、オーストラリアドルを筆頭に全ての投資通貨が対円で上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2020年2月26日～2021年2月25日)

<DCワールド・ソブリンインカム>

「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の受益証券を主要投資対象とし、同受益証券の組入比率を概ね99%台と高位で推移させました。

○ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

7ヵ国の主要先進国の国債に分散投資するとともに、各国の景気動向、各中央銀行の金融政策スタンス、相場動向等に留意し、金利変動リスクを測る尺度であるデュレーション[※]を変化させました。デュレーションは、5.01年～8.86年の範囲内での推移となり、期末は7.64年となりました。また、6通貨に分散投資し、相場動向に対応し各通貨の投資比率を変化させることで、為替変動リスクのコントロールを図りました。当期においては、米ドルとユーロ中心のポートフォリオを維持し、外貨建資産の投資比率は78.4%～95.8%の範囲内での推移となりました。円高リスクが懸念される場面では、外貨の投資比率を

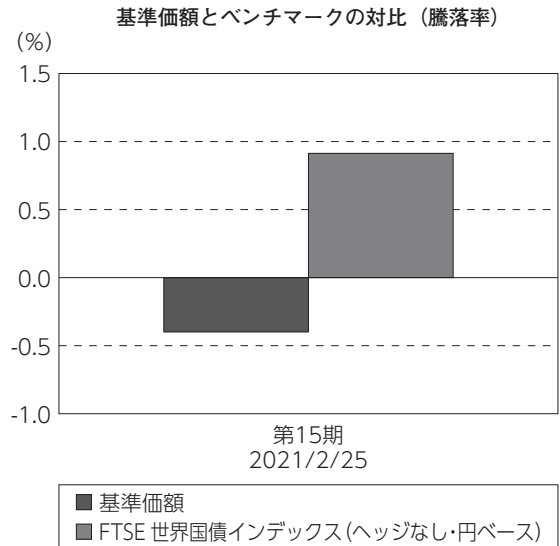
引き下げる対応を行いました。当期においては、ベンチマークと比較し、円、ユーロ、米ドルは低め、オーストラリアドル、カナダドル、イギリスポンドは高めとなりました。なお、外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り、為替ヘッジは行いませんでした。

※デュレーション：金利変動に伴う債券価格の変動性を示す指標として用いられ、一般的にこの値が大きい程、金利変動に伴う債券価格の変動リスクが大きくなります。また、対象債券のクーポンが同じであれば、残存期間が長いほどデュレーションは長くなります。デュレーションは保有債券の平均残存年数とは異なり、利付債券の場合、平均残存年数よりも短く表記されます。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2020年2月26日～2021年2月25日)

当ファンドの基準価額の騰落率は、ベンチマークであるFTSE世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）の騰落率を1.3%下回りました。債券要因では、相場動向に応じて、各国およびファンド全体の金利変動リスクを測る尺度であるデュレーションを調整しましたが、主に米国債のデュレーション戦略が十分に機能せず、ベンチマークのパフォーマンスを下回る結果となりました。為替要因では、ベンチマークと比較し、オーストラリアドルの投資比率を高めで推移させたことがプラスに寄与しました。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

(注) ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）です。

投資対象国の金利と為替

	10年国債利回り（現地終値）			為替相場		
	2020/ 2 /25	2021/ 2 /25	変化幅	2020/ 2 /25	2021/ 2 /25	変化率
アメリカ	1.37%	1.38%	0.01%	110.91	106.06	△ 4.4%
カナダ	1.20%	1.31%	0.11%	83.43	84.73	1.6%
オーストラリア	0.92%	1.61%	0.69%	73.30	84.47	15.2%
日本	△ 0.10%	0.15%	0.25%	—	—	—
ドイツ	△ 0.48%	△ 0.30%	0.18%	120.33	128.95	7.2%
フランス	△ 0.23%	△ 0.05%	0.18%	120.33	128.95	7.2%
イタリア	0.97%	0.69%	△ 0.28%	120.33	128.95	7.2%
イギリス	0.54%	0.73%	0.19%	143.31	150.05	4.7%

(注) 10年国債利回りは、日本を除き当該日の現地前営業日の引値です。

(注) 為替相場は当日のわが国の対顧客電信売買相場の仲値です。

「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の組入資産構成比

	2020/ 2 /25	2021/ 2 /25	変化幅
アメリカ国債	40.0%	39.0%	△ 1.0%
カナダ国債	5.0%	5.8%	0.8%
オーストラリア国債	3.5%	9.5%	6.0%
日本国債	7.1%	5.3%	△ 1.8%
ユーロ	29.3%	25.5%	△ 3.8%
ドイツ国債	10.4%	4.1%	△ 6.3%
フランス国債	12.6%	13.5%	0.9%
イタリア国債	6.3%	7.9%	1.6%
イギリス国債	6.2%	9.7%	3.5%
短期金融商品・その他	9.0%	5.3%	△ 3.7%
保有債券の平均最終利回り	0.76%	0.62%	△ 0.14%
保有債券の平均直接利回り	3.50%	3.30%	△ 0.20%
ファンドのデュレーション	8.07年	7.64年	△ 0.43年
ベンチマークのデュレーション	8.44年	8.79年	0.35年

(注) 各国の保有債券の未収利息に関しては、「短期金融商品・その他」に含めて表示しております。このため、表中の国別構成比と文章中の通貨別投資比率とは正確には一致しません。

(注) 国別構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため合計と合わない場合があります。

(注) 国別構成比は、「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の純資産総額に対する比率です。

分配金

(2020年2月26日～2021年2月25日)

分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。当期間におきましては、基準価額水準、分配可能額、経済的合理性を勘案し、分配は行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位:円、1万口当たり・税引前)

項 目	第15期
	2020年2月26日～ 2021年2月25日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	7,297

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(投資環境の見通し)

投資国の債券市場では、世界的な新型コロナウイルスのワクチン接種進展に伴い経済活動の正常化への期待が高まる中、インフレに対する警戒感や主要中央銀行が現状の金融緩和策の解除に向かう時期を早めるとの観測を背景に、期末にかけて長期債利回りが急上昇する展開となりました。ただ、急速な利回り上昇により、今後の景気回復と利上げをある程度織り込んだことから、当面は徐々に利回りの上昇圧力は和らぐと考えています。一方、中長期的には、各国の景気動向や中央銀行の金融政策スタンスを確認しつつ、金利上昇トレンドが持続可能かどうかを試す展開になると見えています。

為替市場では、2021年の年明け以降、世界的な金利変動に対する円相場の感応度が上昇しています。相対的に日本の金利変動幅が小さいことから、金利上昇局面では円安が進行しやすい状況となっています。また、今後は日本の貿易収支悪化に加え、日本から海外への証券投資や直接投資の増加が見込まれることから、投資通貨に対する円安地合いが継続する可能性が高いと見えています。一方、円相場は株価動向や投資家のリスク志向の変化に影響を受けやすい側面もあるため、株価が下落する局面では円高圧力が強まる展開になると考えています。

(運用方針)

<DCワールド・ソブリンインカム>

主要投資対象である「ワールド・ソブリンインカム マザーファンド」の受益証券の組入比率は99%台の高位を維持する方針です。ただし、追加設定・解約の動向等によっては組入比率が高位にならない場合があります。

○ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

世界経済の構造的な変化や国際情勢の動向、各国の景気動向や物価動向、各中央銀行の金融政策スタンス等に留意するとともに、金融市場間の資金の流れを分析することにより、国別・通貨別配分やデュレーションを決定していく方針です。これにより、ポートフォリオの為替変動リスクと金利変動リスクのコントロールを図ってまいります。なお、外貨建資産につきましては、運用の基本方針通り、原則として為替ヘッジは行わない方針です。

お知らせ

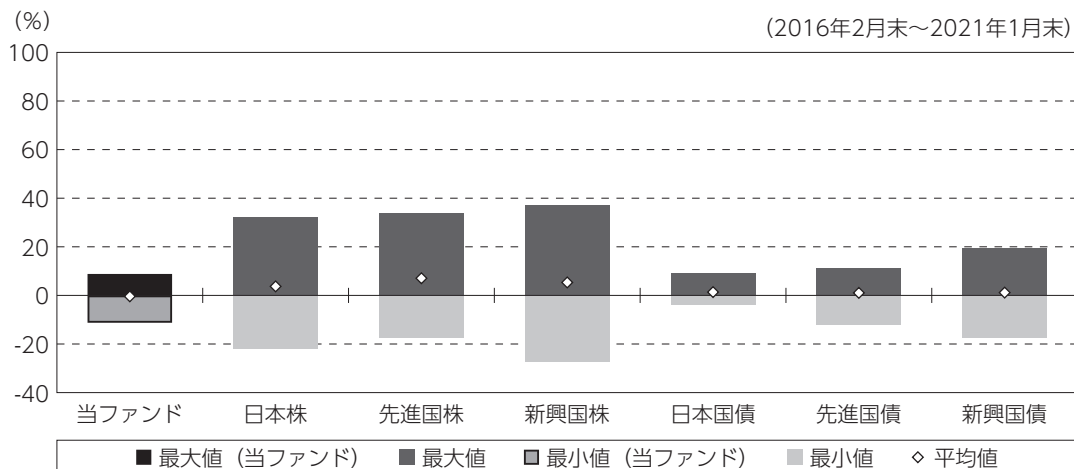
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券	
信託期間	2006年2月27日から、原則として無期限です。	
運用方針	当ファンドは、ワールド・ソブリンインカム マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）に分散投資し、安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。 原則として、実質組入外貨建資産の為替ヘッジは行いません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	日本を含む主要先進各国のソブリン債（国債および政府保証債等）を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とするファミリーファンド方式で運用を行います。
	ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	日本を含む主要先進国のソブリン債（国債および政府保証債等）に分散投資し、リスク分散を図ったうえで、長期的に安定した収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。
分配方針	毎年2月25日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益には、マザーファンドの利子・配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき利子・配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準、経済的合理性等を勘案して決定します。分配金は、決算日の基準価額で再投資します。 分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	8.8	32.2	34.1	37.2	9.3	11.4	19.3
最小値	△ 11.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 0.4	3.7	7.1	5.3	1.4	1.0	1.1

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2016年2月から2021年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、最終ページの「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2021年2月25日現在)

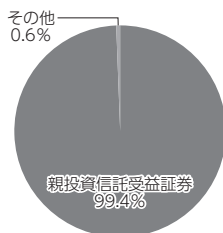
○組入上位ファンド

銘柄名	第15期末
ワールド・ソブリンインカム マザーファンド	99.4%
組入銘柄数	1銘柄

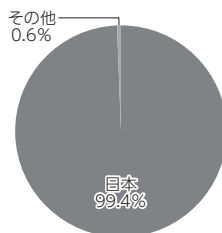
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

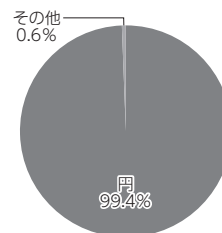
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

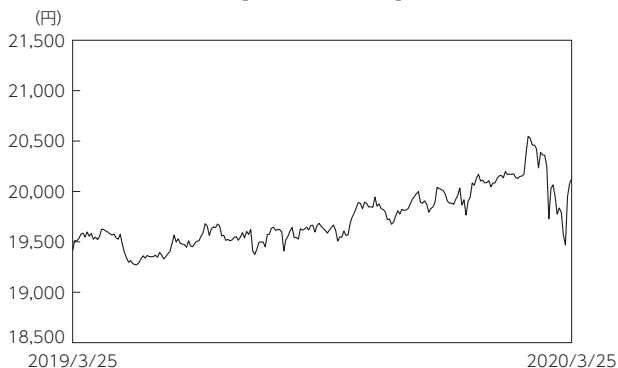
項目	第15期末
	2021年2月25日
純資産総額	105,457,725円
受益権総口数	76,864,733口
1万口当たり基準価額	13,720円

(注) 期中における追加設定元本額は14,183,239円、同解約元本額は13,772,769円です。

組入上位ファンドの概要

ワールド・ソブリンインカム マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2019年3月26日～2020年3月25日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用	2	0.012
(保 管 費 用)	(2)	(0.011)
(そ の 他)	(0)	(0.001)
合 計	2	0.012

期中の平均基準価額は、19,784円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2020年3月25日現在)

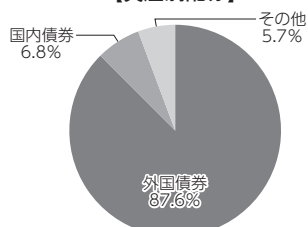
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
					%
1	US TREASURY N/B 8.75	国債証券	米ドル	アメリカ	6.1
2	US TREASURY N/B 1.5	国債証券	米ドル	アメリカ	5.7
3	US TREASURY N/B 1.75	国債証券	米ドル	アメリカ	5.3
4	DEUTSCHLAND REP 4.75	国債証券	ユーロ	ドイツ	5.1
5	US TREASURY N/B 6.25	国債証券	米ドル	アメリカ	4.8
6	AUSTRALIAN GOVT. 4.25	国債証券	オーストラリアドル	オーストラリア	4.8
7	UK TSY GILT 4.25	国債証券	イギリスポンド	イギリス	4.7
8	US TREASURY N/B 7.875	国債証券	米ドル	アメリカ	4.3
9	DEUTSCHLAND REP 6.25	国債証券	ユーロ	ドイツ	3.7
10	US TREASURY N/B 2.625	国債証券	米ドル	アメリカ	3.7
	組入銘柄数		30銘柄		

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

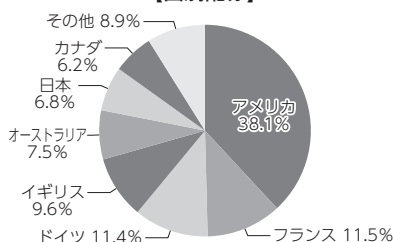
(注) 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国を表示しております。

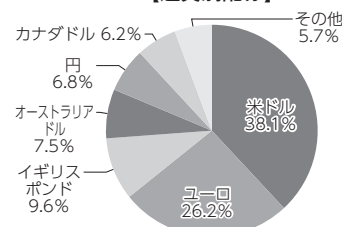
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては100%超となる場合があります。

(注) 国別配分につきましては発行国を表示しております。

(注) 通貨別配分につきましては組入債券の通貨別比率を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は、運用報告書(全体版)をご覧ください。

＜当ファンドのベンチマークについて＞

FTSE世界国債インデックス（ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI – KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA – BPI 国債

NOMURA – BPI 国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。